

蚕糸功労賞受賞

こぐれはるひこ

小暮晴彦さん（北野南）

小暮晴彦さんのお宅は市内で代々続く農家で、昨年、長年の養蚕業の発展に尽力されたことに対し、蚕糸振興に対する最高の表彰である蚕糸功労賞を受賞されました。

小暮さんは昭和56年に建設された新技術の稚蚕人工飼育所へ飼育担当の一人として加わり、養蚕の省力化や、晩霜の影響を受けやすい地域の稚産安定供給に努めました。平成16年JAいるま野所沢養蚕部会長に就任され、研修会や講習会を通じて地域の養蚕業の振興に尽力され、知事賞も今までに2回受賞しています。現在のJAいるま野所沢養蚕部会員は6人で高齢化や後継者不足が問題になっていますが、小暮さんのお宅では幸い息子さんが引き継ぐ考えているので安心だそうです。

養蚕で苦勞した点は、「自治会やPTA行事と重



なると、蚕に桑を与えるのが深夜までかかってしまったこと、天候不順の時に必要な桑葉の確保に奔走したこと、晩々秋蚕の頃の蚕室の温度管理等」をあげられています。今後養蚕業を行っていく上で心配しているのは、蚕のタネを供給する会社と繭を買い上げてくれる会社がいつまで存続してくれるかだそうです。

小暮さんは今までを振り返って、「養蚕が何よりも好きだ。奥が深く、工夫次第で繭の収量を上げられる」と言われます。また、「社会教育の一環として日本の伝統産業である養蚕を後世に伝えたい」という思いもあるそうです。

～環境にやさしい農業推進事業～ フェロモントラップ利用推進事業について

所沢市は、全国でも有数の里芋生産地です。里芋の生産にあたって8月頃から大量に発生するハスモンヨトウ（蛾）は、里芋や大豆などを好んで加害するため対策が必要な害虫です。ハスモンヨトウの被害を防ぎ、適期防除と使用農薬の低減を図り環境にやさしい農業を行うために進められているのが、フェロモントラップ利用推進事業です。

フェロモントラップのしくみは、畑に性フェロモン剤を入れたフェロモントラップを設置するこ

とで、フェロモン剤の成分をハスモンヨトウのオスが、メスが放出する性フェロモンと勘違いして、引き寄せられ、トラップに入り込み捕獲されるというものです。**このトラップによる捕獲数を集計し、発生時期を予察して防除適期を把握することで、無駄な薬剤散布することなく地域での一斉防除を効率的に行えるようにしています。**

この取り組みには、柳瀬・富岡地区の8農家集団138名のみなさまにご協力をいただいております。

農作業事故防止・農薬の適正使用について

～ 農作業事故防止について ～

日本全国の農作業中死亡事故は、年間約400件発生しています。農作業事故が発生しないよう、ひとりひとりが安全に農作業に取り組むことを心がけ、特に高齢者についてはご本人だけではなくご家族も注意するようにしましょう。

～ 農薬の適正使用について ～

農薬を公共施設や住宅地に近接する場所で使用する際は、**できるだけ、捕殺、被害部の切除など農薬散布以外の方法で防除し、やむを得ず農薬を散布する場合には、使用方法や注意事項を厳守して**使用しましょう。